

最上小国川清流未来ニュース

平成31年1月18日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第13号

特集 最上小国川流域の振興に向けた取り組み

下の図は、平成27年4月に策定した「最上小国川清流未来振興計画」です。この計画に基づいて、現在、様々な取り組みが進んでいます。
最上小国川清流未来ニュースでは、こうした取り組みの動きについて、毎号、ご紹介していきます。
今回は、その中から3つの取り組みについてご紹介します。

※アユは最上小国川全川で放流

- アユ
- ヤマメ
- イワナ
- サクラマス

清流を守り・育て・活かす

目標：アユの放流量と漁獲量 50%増を目指す。

アユ等の放流 ← 裏面で紹介

- 1 アユ放流事業への支援
- 2 水源井戸の整備
- 3 アユ中間育成とサケのふ化場の併用施設整備
- 4 サケふ化施設の遊休期間を活用したアユ種苗生産の増大
- 5 中間育成技術の継承と人材確保・育成
- 6 環境モニタリング
- 7 魚道改修・修繕の検討・実施
- 8 河川工事における環境対策
- 9 水辺林、溪畔林の整備
- 10 計画的な保安林の指定
- 11 合併浄化槽の整備
- 農業等の低減
- 間伐材の搬出・主伐後の再造林



- 凡例
- 印：地域の将来像を実現するための施策
 - 印・番号なし：全域、全川が対象の施策
 - ◎ 印：複数箇所を実施する施策の代表箇所



先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川



川を知り 川に親しむ

目標：子どもの最上小国川のイベント参加者数年間 8,000 人を目指す。

アユ釣り教室の開催 ← 裏面で紹介

- 1 アユ釣り教室の開催
- 2 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
- 3 イワナ、サクラマス等の産卵場造成
- 4 遊漁券の販売促進
- 5 ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用拡大
- 6 釣り場のアクセス改善
- イベントの連携協定



⑦ 魚道の改修 瀨見発電所 頭首工 最上町 大堀

治水や治山で 自然と共存する

目標：50年に1度の洪水を安全に流せるようにする。

最上小国川流水型ダム整備 ← 裏面で紹介

- 1 最上小国川流水型ダム整備
- 2 河川整備（長沢地内）
- 3 河川整備（大堀地内）
- 4 赤倉地区内水対策（一部完成）
- 5 河川情報の提供（ライブカメラ設置）
- 防災意識向上の推進
- 河川の効果的な維持管理
- 水位等の河川情報の提供
- 克雪対策の推進



おもてなしの 心で癒す

目標：地域の観光者数 150 万人を目指す。

- 1 物販及び情報発信施設新設の検討
- 2 流水型ダム周辺整備
- 3 月楯橋・満沢橋付近での駐車場と進入路の確保
- 4 遊歩道の整備
- 5 共同浴場とふかし湯の整備
- 6 歴史的な赤倉温泉街の継承・発展
- 7 温泉地等の魅力向上の推進
- 8 「川の駅」でのイベント開催
- 川床の茶屋設置方策の検討
- イベントの連携検討
- 親水空間創出の推進

○ : 平成29年度まで完了
着色無 : 事業実施中



⑤ 共同浴場とふかし湯の整備（せみの湯） 最上町 瀨見



③ アユ中間施設育成とサケふ化場の併用施設整備 舟形町 舟形

地元ブランドで活性化

目標：雇用の確保につながるブランド品の創出 3 品目を目指す。

- 6次産業化の推進（アユ加工品等の開発支援）
- 地域ブランド商品の開発
- 木質バイオマスの利活用の推進

鮎釣りチャンピオンを目指そう～鮎釣り甲子園大会～

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取り組みの中から「アユ釣り教室・大会の開催」について紹介します。

8月5日（日）に舟形町の最上小国川一の関大橋付近で最上小国川鮎釣り甲子園大会が行われました。これは最上小国川清流未来振興機構等が初めて開催したもので、山形県が誇る鮎釣りのメッカである最上小国川に、県内外から高校生58名が集い、鮎の友釣りで釣果を競いあいました。

参加した高校生たちは川の石に足を滑らせながらも、地元の鮎釣り愛好家に釣り方のコツを教えてもらいながら、次々と鮎を釣り上げていました。また、競技の後は、最上小国川流域の味覚として鮎の塩焼き、山形名物芋煮や舟形町の野菜などを参加者全員でおいしくいただきました。高校生からは「鮎釣りを通して地元の良さを感じることができた。また参加したい」という声もあり、とても思い出に残るイベントになったのではないかと思います。

●最上総合支庁総務課連携支援室：0233-29-1240



いざ、川の中へ！釣れるかな～！



ベテラン釣り師からの指導が入ります。

大きくなったら、また会おうね！



H30. 6. 21 サクラマス稚魚放流体験学習



H30. 5. 30 稚アユ放流体験学習

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取り組みの中から「サクラマスの放流推進」について紹介します。

小国川漁業協同組合では県の魚である「サクラマス」を知ってもらい、サクラマス資源の増大を図るとともに漁場環境保全の重要性についての学習を通して、故郷の美しい自然に触れる事を目的として流域の子供たちと一緒に放流体験学習を実施しています。

6月21日（木）に最上小国川の支流である絹出川において、最上町立向町小学校3年生33名とサクラマス稚魚放流体験学習を行い8,000尾が放流されました。

また、サクラマスだけではなく稚アユの放流体験も実施しており今年は最上・舟形両町で6回、計60,000尾もの稚魚を最上小国川に放流しました。未来につなげていくために今後もこの放流体験を続けていきます。

●小国川漁業協同組合：0233-32-2892



流水型ダムの建設状況

（ 堤体打設工事完了 ）



H30. 11 ダム堤体状況（打設高さ41m）

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取り組みに流水型ダム整備事業があります。今年度は春先から堤体部コンクリート打設工事を再開し、約2万m³のコンクリートを流入しました。気温の高い夏期には、温度上昇によりコンクリートの品質に悪影響を与えない夜間に作業を行いました。昨年11月に、およそ2年間に及ぶコンクリート打設が完了し、今年度内にダム堤体上部への橋桁の架設や、放流される水の勢いを抑制する減勢工を完成させます。来年度は、これまで堤体工事に使用した仮設ヤードの施設の撤去も行います。来年度は、これまで堤体部の工事のため、仮排水トンネルに流していた河川水を本川側に切り換え、仮排水トンネルの閉塞を行うとともに、仮設ヤード撤去に伴う跡地整備や、ダム管理に必要な通信・警報・観測設備の整備も並行して行います。最後に試験湛水を実施しダムの安全を確認したうえで、平成32年3月に完成する予定です。流域住民の方々の安全・安心を一日も早く実現するよう事業を推進してまいります。

ー流水型ダムとはー

通常は水を貯めず、ダムのない河川と同様に水が流れます。一方、洪水時には一時的にダムに水が貯められ、上流から流れる水よりも下流へ流れる水量が少なくなるため、下流の洪水被害を防ぐことができます。

ー最上小国川流水型ダム整備事業の概要ー

- ・高さ 41m ・長さ 143m ・堤体コンクリート約4万m³
- ・集水面積 37.4 k m² ・総貯水容量 2,300,000m³ ・有効貯水容量 2,100,000m³

●最上小国川流水型ダム建設室：0233-29-1407



H30. 3



H30. 5



H30. 7



H30. 10

ダム堤体工事進捗状況

【編集後記】今後も最上小国川清流未来振興計画に掲げた施策の取り組み状況を紹介していきます。また、最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、施策の取り組み状況や流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧下さい（<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>）。

【お問い合わせ先】最上小国川清流未来振興機構（山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：0233-29-1240